

# 名城大学 海外臨床薬学研修

研修期間：令和元年 7 月 1 日～7 月 12 日

所 属：名城大学薬学部薬学科

学 年：6 年

学籍番号：140973350

氏 名：野倉里香

## 1. 参加目的

以前から海外留学に興味があり、海外の文化や言語を直に感じ、現地の人とコミュニケーションしたいと思っていたからです。今回は USC での研修ということでアメリカの薬学部や薬剤師について学び、日本と違う点を知ることによって自分の今後に生かせたらと思い、参加しました。

## 2. 研修内容

【研修テーマ】糖尿病治療薬について

【研修日程】

月日	研修内容
7 月 3 日	シタグリプチンの物性や薬物動態について
7 月 8 日	SU 剤の薬理作用、薬物動態について、SGLT2 阻害薬の構造について、DPP-4 阻害薬、GLP-1 刺激薬のおおまかな薬理作用
7 月 9 日	糖尿病治療ガイドラインについて、SGLT2 阻害薬の物性や薬物動態について、DPP-4 阻害薬、GLP-1 刺激薬の構造と物性について、SGLT2 阻害薬の副作用について
7 月 10 日	1 型糖尿病について、インスリン自己注射について

【研修内容の詳細】

講義内容に関しては、糖尿病治療薬についてがメインでした。

血糖値の自己測定やインスリン注射については調製の実践なども行いました。

薬局は2つの薬局を見学し、1つは個人経営のアメリカでは珍しい漢方を多く取り扱っている薬局で、もう1つは病院内にある薬局でした。

## 3. 感想

研修を通じて、日本の薬剤師と違い、アメリカは薬剤師が予防接種を行うことができ、職能が幅広いと感じました。薬剤師を取り巻く環境が日本と違うということもあり、患者のセルフメディケーションの推進に薬剤師が大きな役割を果たしていると感じました。

糖尿病治療薬については名城大学でも学びましたが、英語での講義だったので理解するのに一苦労しました。自分の今までの知識を総動員して付いていくのに精一杯でした。

今回の研修では、日本の他 2 大学、米国、韓国、そして中国の学生との交流からも多くを学ぶことが出来ました。各国の薬学生の英語力や薬学に関する知識量、他国の学生とでも積極的にコミュニケーションしようとする姿勢は刺激的であり、英語や薬学に対する学習への意欲を高めるきっかけとなりました。

2週間という短い期間でしたが、薬剤師に関する視野は国を超えて大きく広がり、非常に有意義な経験となりました。この経験を生かして、将来はアメリカの薬剤師のような患者と積極的にコミュニケーションのできる薬剤師になりたいと思いました。